

「班ごとマップ」のすすめ

町内単位の災害支援が難しいのなら、班単位でやったら？

(1)どこでも「3つの壁」を越えられない

災害がこれだけ頻発しているというのに、災害時避難支援体制がいまだにできていません。理由ははっきりしています。

- ❶支援対象者が手を上げない。「放っておいてくれ！」
- ❷支援者が見つからない。探すところまで行っていない。
- ❸登録者の情報は、怖くて使えず、金庫に閉まったまま。

❶まず、要援護者に「避難支援が必要なら手を上げて」ということ自体に無理があります。❷マップを作っていないので、対象者ごとに誰を支援者にするかがわかりません。マップを作れば、普段誰が関わっているかがわかるので、すぐに特定できるのですが。❸一定パーセントの人は上がってくるのですが、その情報の扱いに苦慮しています。個人情報保護の縛りがあるので、怖くて使えないのです。仕方なく「金庫に閉まってカギをかけている」ということです。

(2)班内なら知り合い同士。「その時」に頼れる相手

やり方を変えたらどうでしょう。町内（自治区）でなく、班ごとの避難支援に切り替えるのです。班ではお互い知り合いです。その情報を「班内限定の支え合いマップづくり」で出し合えば、気になる人と、普段関わっている人がわかります。引きこもりの人だって、本人が見込んでいる相手が見えてきます。いざというときは、その人に関わってもらえばいいのです。

(3)支え合いマップづくりの障害もない

支え合いマップづくりも、町内単位では個人情報とかプライバシーといった声が出てきます。自分のことを町内全域に知られるのは嫌という人も少なくありません。

しかし班ごとなら、はじめからプライバシーが事実上存在しませんし、被災すれば、否応なく班内の人に助け出してもらうことになります。そのためには各家庭内の状況も、細々としたことまで知り合っておかねばなりません。それを確認し合うためのマップづくりです。

(4)班ごとの避難支援の概要

「班ごとの避難支援」を、マップづくりを中心に簡単に整理してみましょう。

①班毎に班内の人が集まって、班主催でマップづくり。

マップづくりの主催は班（長）でいい。自治会主催にすると面倒になる。

②模造紙大の住宅地図を広げる。

十数世帯なので、手書きが可能。できるだけ大きな地図を用意。太マジックを数色用意。丸いシールも（要介護者等に印をつける）。

③一人ひとりについて「気になる」状況を出し合う。

要介護、障害、病弱、引きこもりがち等、班の実情で「気になる」状況は多様。地震を考えれば家屋の状態も調べる必要が。

④気になる人に普段誰が関わっているかも調べ、避難支援者を決める。

本人と相性の合う人でないと、うまくいかない。その人を探す。

⑤一人で助け出すのが難しい人は、誰と誰で運び出すかも考える。

「そのとき」不在の可能性が高い人は候補に向かない。班内なら要介護の状況もわかるから、現実的な避難支援策を考えられる。リヤカーなどの必要な機材も調達法を考え得ておく。どうしても本格的な避難支援の必要な人（最重度の要介護者など）については、自治会等で作られた防災組織に報告・申告しておく。

⑥最悪の場合は、誰かれ構わず助け出すことにする。

「そのとき」誰が現場に居るかはわからないから、最終的には、居る人で対処す

る。そのために普段から、班内の親睦を深めておくこと。

⑦班内外の身近な場所を一時避難所にする。

とりあえず安全を確保するための場。班から直近の場所。そこで全員の安全を確認したら、正式の避難所に行く。

⑧時々班内で、避難訓練をやってみる。

いわゆる「避難訓練」でなくても、みんなで「一時避難所」でお茶会を開くというだけでもいい。

⑨この情報は、町内会に上げず、班内だけに流通させる。

町内会がらみだと公共的な事業になってしまうが、班内のお茶会ついでマップづくりなら、プライベートな営みと考えればいい。お茶会を開くたびに町内会長に報告する必要はないはずだ。

⑩「私のことは放っておいて」と言う人も、例外にしない。

マップづくりは班内のケア会議でもある。「心配な人」は（本人の意向はどうかあれ）皆で助け出す方法を考えるのは当たり前。「そのとき」本人は誰なら受け入れるかを探し出す。誰かはいるはずだ。

⑪以後も班内のふれあいや助け合いを励行する。

災害は明日にでも発生する。その時助け合えるのは班内の仲間ぐらいである。このことを肝に銘じて、班内での親睦を深めるために、できることをやっておく。

「集金集会」が開かれている所があちこちにある。町内会費を徴収するために、班長の手間を省くためか、班内で定期的に集会を開く。集金でなくても、とにかく定期的に集まる機会を作ることが大事だ。今は廃れつつあるが、何らかの「つどい」を再開しなければなるまい。